



【資料】各種調査結果/まちづくりに対する新市民の声と地域の強み
新市民の声を集める 4

首長・議会代表者取材調査

8市町村の代表の意見をうかがいました

有識者ヒアリングの一環として、8市町村の市長・町長・村長およびそれぞれの議会代表者にお話をうかがいました。

総合的に現在の8市町村各地域が共存共栄していくことが重要であるとわかりました。

地域の強みや特性・地域資源

地域の強みや特性

- 交通至便、教育・福祉・医療の充実、地価が安い、といった優れた居住環境がある
- 保守的な新潟地域にありながら、積極的に新しいものを取り入れるという気質もある
- 織物、ニット製品などで活躍する女性の存在は、新産業の創設に役立つはず
- 伝統文化・資源そのものと同時に、それを守っている人間が、資源だと考えている
- 信濃川は、文化的にも重要なものであり、大切にすべきもの
- 水（おいしい水100選）と緑

活用すべき地域資源

- 行政と企業タイアップの実績（酒蔵とのカルガモ農法など）
- 集落の区制度などによる地域コミュニティが形成されていること
- 農村文化・田舎暮らし体験“グリーンリース”
- 文化活動・ボランティアの実績
- ランドスケープの整備、ガーデン住宅の販売
- 幼児教育や福祉、文化活動等の実績

将来構想策定に関する要望や意見など

- 100年後のまちをイメージして、自分たちがこうなりたいという可能性を追求していくべき
- 地域資源を共有し、それぞれの地域の良さを最大限に活かす構想を
- ダイナミックで無駄のない地域全体の事業を打ち出すことが望ましい
- 良いビジョンを打ち出すのはもちろんのこと、ビジョンを実現していく仕組みをどうするのか、誰が責任を持って実行するのか、といった点について明確にする必要がある

有識者ヒアリング調査の実施概要

1. 調査期間 5月22日～29日
2. 対象者構成 8市町村の市町村長：8人、議会代表者：8人
3. 質問事項 (1) 地域の現状・課題・特性・資源について
(2) 合併に対する期待や地域の役割について
(3) 新市の今後のあり方について

将来への期待や新市のあるべき姿

産業振興関連について

- 30万都市となることにより、行政執行能力が高まると共に、ネームバリューが上がることで工場誘致等の可能性が広がる
- 大規模なコンベンションセンター、ドーム、スポーツ施設を建設したい
- 流通団地などにより企業誘致を図っていきたい
- 今後も農業を大切にしていきたい
- 安心で、安全で、潤う産業づくりをしたい
- 産業が潤い、農業の後継者が定住できるような合併であるべき

観光環境について

- 地域資源を活かした観光ルート等を考えて、まちの活性化につなげていきたい
滞在型の観光へと転換していきたい点でなく、線（周りの市町村との連携や協力、観光資源の連携など）で結びついていきたい
- 豊富な自然を活かした、フィールドミュージアムづくりとしてまとめると面白い
- 大分県の湯布院のように、見て回る観光地としたい
「健康的な観光地」を目指した方策を考えていきたい

生活環境について

- 安心・安全に住めるまちとしたい
- 地域資源循環の仕組みづくりをポイントとして考えている
- 高齢者にやさしいまち、福祉の充実した地域にしたい。40～50代の層の人たちへの施設（生涯学習なども行える）が必要
- 少子高齢化対応などきめこまかい住民サービスを期待したい
- 子どもたち、お年寄りが笑顔で暮らせる仕組みづくりを行いたい
- 高齢者の良い知識を受け継いで文化を残していくコミュニティの形成
- 人間性を重視し、米百俵の精神にあるように、将来を見据えた人材づくりを行っていきたい

文化のあり方について

- 自分たちが行っていることが、文化的なものであるとの認識を持ち、文化的な香りがする地域としたい
- 小さな市町村で守ってきた文化を、30万人で守っていくまちにしたい